

## 黒澤明監督の「夢」の感想文

黒澤明監督の映画「夢」は、独立した短い八つの物語です。下記は、それぞれの夢の要約と自分がその話から受け取ったメッセージや作品の個人的な好き嫌いに関しての感想文です。次の夢の要約には、自分にとっての一番重要なポイントが記載されています。他人の要約と比較する事が有れば多分内容が違うでしょう。

### 第1話: 日照り雨

暖かい太陽が照っている日、立派な門構えの家から少年が外へ遊に出ようとした時、急に雨が降りだす。でも、雨が降っているのに、太陽の光が奇麗に見える。そのとき母親に「こんな変な天気の日には出はいけません。日照り雨の日には、狐の嫁入りが行われる。狐はそれを見られるのが嫌だから見てしまうと恐ろしい事が起こりますよ！」と言われました。少年はこう言われて、余計に行きたくなり、早速出かけて行く。茂った森の奥まで歩き、とうとう狐の嫁入りの式を見掛けました。木の幹の後ろで隠れ、心を奪われて見ていると、狐達は子供の気配を感じてしまいました。少年が、狐に見つけられる前に逃げて、家に無事に着いたと思ったら、家の門で母の怖い顔が迎えに出て呉れていました。短刀を渡されて「これ、凄く怒った狐が貴方に渡す様にと言った。腹を切って謝れという意味でしょう。本当に死ぬ気になって謝ってらっしゃい！狐は、虹の下に住んでいるはず。」と母に言われました。門を閉めて母がいなくなり、家に入る事が出来なくなりました。仕方が無く、少年は、狐達を捜しに虹の方へ向かって行く。。。

この夢は本格的な終りが無く、見終って少年はどんな運命を辿ったのか想像しながらずっと考え込みたくなる様で、面白いと思いました。狐の嫁入りの場面は、映画よりも劇を見ている感じがする程美しいと思いました。この夢は、御伽話の恐ろしさを上手に表していると思いました。

### 第2話: 桃畑

雛祭りの日、少年の姉が雛祭りの飾りの前で友達と一緒にままごとをして遊んでいる。突然少年は見た事のない女の子を見掛け、姉と友達に聞いてみると、皆に馬鹿にされるだけ。女の子は、少年にしか見えない。女の子は、家の裏の畑に向かって走り出し、少年が追いかけていく。桃畑に着くと、人間の姿をした雛人形達が勢揃いして待っていた。少年の家族が、桃の木を全部切ってしまったので、雛人形が怒っていました。雛人形が桃の木の化身であり、桃の木が無くなって雛祭りを祝うべきではないと言われました。少年は、桃畑が大好きであった事を泣きながら伝え、雛人形は、木が切られたのは少年の責任ではない事を理解して呉れました。少年が可哀想で、最後にもう一度だけ桃の木の花盛りとダンスを見せてあげました。少年はそれに感動して、大人になったら桃の木を守るよう決心している様に見える。。。

この夢の自然破壊のメッセージはわりと単純で、ダンスもちょっと長過ぎて「お茶でも飲みたいなあ」と思う程でした。狐の嫁入り程奇麗だとは思いませんでした。

更に、この夢にまた少年が出演するけれど、この少年の演技力は余り良いとは思いませんでした。特に、少年が泣く場面は、本当に泣いているのか、遊びで他の子供の泣き声の真似をしているのか判らない位下手だと思いました。

### 第3話: 雪あらし

4人の山男が猛吹雪に覆われて、苦しそうに登山道を進みながらキャンプを必死に探す。息苦しい、寒い、吹雪と寒さで目が見えない、疲れて段々生きる気が無くなっていく山男達。皆はもうぐったりで横になり、寝てしまうと危険な情態になる事を理解しているにも拘らず、「ちょっと休もう。。」と言いながら睡魔と闘う。その時、奇麗な長髪の雪女が登山隊のリーダーの前に現れる。雪女は、「雪は温かい、氷は熱い」と甘美な声で囁き、輝く毛布を山男に掛けてやる。山男は静かに眠っている様な姿になる。でも、雪女に操られている事に気付いて山男は雪女に必死に抵抗して起き上がろうとする。雪女はそれを感じて、美しい女から醜い老女に豹変し、高笑いしながら吹雪に舞い上がる。目が覚めた山男は、立ち上がると吹雪が上がり、キャンプが目の前に有る事に気付き、後3人の山男を連れてキャンプに向かって進んで行く。。。

Lafcadio Hearn の御伽話「雪女」を元にした作品だと思われます。

「雪女」は、優しさと厳しさの両面を持つ女で、この夢もその両面を表している様ですけど、雪女は本当にどんな積りであったのでしょうか？山男を助けたかったのか、山男を寝させて殺したかったのか、いろいろな解釈が出来そうです。私にとっては、優しい振りをして、「雪は気持ちが良いので寝ても安全だよ。」と言う様に山男を扱い、それに気付いた男が闘おうとすると、雪女の本当の姿が現れる。この話の前半は、登山隊の人が紐で縛って一緒に歩き、息苦しそうに進んで、疲れが自分の身で感じる事が出来る様な場面だと思いました。随分長い部分ですが山男の苦しみ、極度の疲労を良く伝えて呉れる場面で凄く良いと思いました。

### 第4話: トンネル

戦争時代の前後を分界するトンネル。戦争が終って除隊した中隊長が疲れた顔をしてトンネルを抜けようとする。その時、戦争に使われて死んだ猛犬がやってくる。唸られて、吠えられて、嫌な気持ちをしながら徐ろにトンネルを渡る。通り抜けてやっと向こう側へ出れたと思った途端、中隊長の腕に抱えられながら戦死した野口一等兵が駆けつけてくる。悲しそうな顔をして「自分は本当に戦死したのですか？」と尋ねる。その次に中隊長の小隊全体が現れ、同じ事を聞きたい様子です。中隊長は心を込めて謝り、皆が本当に全滅した事を理解して貰う様に必死に説明する。中隊長は、皆の運命に対して責任を持ち、犬死にであった戦死の無念と罪悪感を告げる。最後に、罪滅ぼしが行われたかの様に兵士達は後退りしてトンネルに戻り帰る。でも、犬は納得していないかの様で、亦トンネルから出て来て中隊長に吠えながら会いに来て呉れる。。。

中隊長の戦争と戦死に関するセリフは、心を込めて語られ、無念な気持ちが良く判ると思いました。野口一等兵と小隊達の気持ちも良く現実的に表されて、凄く可哀

想に思いました。更に、戦死した兵士達の姿が本当に死んだ人の姿に見えて、芸術的に良く出来ていたと思いました。演技力は、全体の夢の中で一番上手だと思いました。最後の犬の場面は、トンネルで経験した事を忘れない様に、千載中隊長に付いて行く犬だと解釈しました。

#### 第5話: 鴉

美術館でゴッホの「アルルのはね橋」を眺めている男性が、絵の美しさに見とれて絵の中に入って行く。絵の中に入ると、絵の世界が活動し、男は早速ゴッホを捜し始める。ゴッホは、平原で描いていて、話してみるとゴッホの苦悩が明らかになります。暫くしたら、ゴッホはさっさと歩いて行き、男性はゴッホの色々な絵の中を通りながら追い付いて行く。

この夢は、黒澤監督のゴッホの作品に対しての心酔が良く判ります。生彩な色を使うゴッホの絵の世界を通り渡る男性は、ゴッホに憧れている感動が良く伝えられています。この夢は、日本語を使わずに、英語とフランス語で演じた夢なので、少し他の夢とは違います。

#### 第6話: 赤富士

富士山全体が強烈な真っ赤な色。原子力発電所が爆発した為、群集がパニックになって逃げ惑う。若い男性が背広を着た男と子供を抱えている女とたまたま一緒になり、海へ向かって放射能から逃げる。断崖に着くと人が絶望的に身投げをしています。海で泳ぐイルカまで逃げようとしている。背広男は、原子発電所の責任者で、「逃げては無駄だ、放射能からは逃げられない。」と言った。原子発電所の科学者は、着色技術を開発し、安全性の為に放射能物質に色を付けたにも拘らず、「判って死ぬか、判らないで死ぬかの違いで、死ぬのは確実だ。」と言っていました。気が狂ったかの様に色の着いた空気を指示しながら、色んな猛毒物質の色と成分を説明し「人間は馬鹿だと」言いながら、崖から海へ飛び込む。女性と子供は泣き続け、残された男性は手を一所懸命に振りながら必死に色の着いた空気と闘う。。。

これは、原子発電所の危険性を例にして、人間が自然に対する責任感を持つべきだと伝えたい夢だと思います。科学者は天才でも、人的ミスはいつでも起こる可能性が有る。科学者と着色技術に対して「死神に名刺を貰ったってどうしようもない」のラインは凄く良いと思いました。

#### 第7話: 鬼哭

将来の地獄絵図。放射能の影響で世の中が破壊された後。植物も、動物も、全てが突然変異し、人間までも角を生えた鬼になる。タンポポの化物、顔が二つ有るウサギ、毛の生えた魚とかが生きる世の中。

ある日、一人の鬼と健康的な男性が偶然会ってお互いに警戒しながら話し始めます。鬼によりますと、角の多い鬼がある程度力強くて、角の少ない鬼を食べ、共食いをしながら食糧が無くなった世の中で生き残っていく。更に、夕方になると鬼の角は

癌の腫れ物の様に酷く痛くなり、死ぬ程痛い、死にたくても死ぬ事が出来ない。「これが、自然と生命を守らない欲張りな人間達の因果なのです。」と鬼が教えて呉れる。

この夢は「赤富士」の話の続きらしい物です。暗くて、陰気な、毎日生き続けていくだけで苦しむ世界。見てぞっとする夢だと思いました。

### 第8話: 水車のある村

静な水車のある村、清らかな川水、子供達は安全に遊べる所、カラフルな花が一杯咲いている村。若い男性が村に通り掛かって、水車の修理をしている老人に話しかける。老人は、独り言を言っているかの様に村の暮らし方を説明する。村では、人間と自然と一緒に共存して生きて行く。燃料には薪と種油、収穫には牛、現代文明の便利な物を知らない村。人間と言う物は自然の中の一つの物だと、忘れたくない村人達なのです。。。

この夢は桃源郷の話です。現代文明の人々は日々の生活に追われて「人生は辛い、寂しい、厳しい。。」と良く苦しがる。それは、人間の気取りで、人生は本当に楽しい物だと言ってくれる夢だと思いました。老人のセリフは良くても、若い男性との繋がりが余り良くなって、二人の間の会話よりも、老人が独語をし方が良かったかもしれません。

### 「夢」全ての感想

「夢」のペースは、確かに遅くて退屈する可能性が強い場面も有ります。そう言っても、好みに依り、ペースが遅くても、綺麗な場面に見とれる時とか、登場人物の気持を凄く身を感じられる時とかが有ります。ペースが遅いからこそ、ゆっくりと味わう事が出来る。例えば、狐の嫁入りの式の美しさ、雪あらしの山男の苦しきとか。。。

一つ一つの夢を単独に分析すれば、それぞれの夢には明らかなメッセージが有るにも拘らず、本当に完璧にメッセージを心の中に取り入れるには夢は短かすぎたと思いました。平均15分の夢は、本当に人間を感動させるには無理だと思いました。

逆に、映画を八つの夢に分割せずに、一つの作品として見れば、どうでしょうか？それぞれの夢は繋がっているのでしょうか？そうならば、夢の順番には意味は有るのでしょうか？私は、そう思います。黒澤監督の作品は、適当なピースを集めるだけの映画とは思えられません。

「夢」は、日本昔話や御伽話などから現代に渡って、人間と自然との関係を厳しく批判し、将来が生き地獄にならない様に願う夢だと思いました。

「人間は、動物の自然法を守るべき (1. 日照り雨)、植物を大切にすべき (2. 桃畑)、自然に対して尊敬と畏怖を持つべき (3. 雪あらし)。更に、人間もお互いに保

護すべきです。人間性が消え去ったら、第二次世界大戦の様な(4。トンネル)虐殺が起こる。世の中を守って、大切に生きて行けば、人間の芸術的な才能(5。鴉)なども楽しむ事が出来る。現代の欲張りな生活に覆われて、自然に対しての残酷な扱いを続くと酷い目に会い、人生が全滅する (6。赤富士、7。鬼哭)可能性が有ります。人性の始原を思い出して、世の中を幸せな場所に(8。水車のある村)する事を目的として生きていきましょう。。。」と黒澤さんが言って呉れるかの様です。

鳥居雅美